

# わたしたちにできること

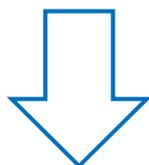
## ポイント

しょうがい ひと しゃかいてきしょうへき と のぞ しゃかい せきむ  
障害のある人への社会的障壁を取り除くのは社会の責務である  
という「障害の社会モデル」を理解すること。

しょうがい ひと およ かぞく さべつ ぶとう さべつてき  
障害のある人（及びその家族）への差別（不当な差別的  
とりあつか およ ごうりてきはいいりょ ぶていきょう おこな てってい  
取扱い及び合理的配慮の不提供）を行わないよう徹底するこ  
と。

じぶん こと じょうけん も たよう たしゃ  
自分とは異なる条件を持つ多様な他者とコミュニケーション  
をと ちから やしな ひと かか こんなん いた そうぞう  
取る力を養い、すべての人が抱える困難や痛みを想像し  
きょうかん ちから つちか  
共感する力を培うこと。

「ユニバーサルデザイン 2020行動計画」より



## まずは声をかけてみよう

しょうがい ひと こま み  
障がいのある人が困っているところを見かけたら、こちらから  
せっきよくてき こえ なに てだす き  
積極的に声をかけて、何か手助けできることがないかを聞きまし  
ょう。じぶん じぶん 無理そうなら、まわりの人にも助けてもらい  
ましょう。

## あいて たちば しぜん たす あ 相手の立場になって自然に助け合おう

しょう 障がいのあるなしにかかわらず、こま 困っているひと たす 人を助けるのは  
とうぜん 当然のことです。しんせつ 親切のつもりが、めいわく かえって迷惑なこともあります  
ので、どんなことをしてほしいかをきちん き と聞いてから「おた  
がいさま」というしぜん きも たす あ 自然な気持ちで助け合いましょう。

## ちが りかい ひとりひとりの違いを理解しよう

しょう 障がいには、さまざまなしゅるい しょうじょう ちが 種類や症状の違いがあります。しょう  
のあるひと こせい とく ひとり ちが 人の個性や特ちょうも一人ひとり違います。コミュニケー  
ションを と 取り、おたが りかい あ 互いを理解し合いましょう。

ひとり ひとり ひとり  
こうどう かんが かの  
一人ひとりの行動や考え方で

かいけつ  
解決できるバリアがあります。

あいて きも  
相手の気持ちになって、

じぶん かんが たいせつ  
自分のできることを考えることが大切です！